

公共事業再評価調査

整理番号 H26-6

担当部課名	県土整備部 港湾空港課	電話番号	017-734-9677
		E-MAIL	kowan@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着工 <input type="radio"/> 長期継続 (年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5 年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	--

1 事業概要

事業種別	港湾事業		事業主体	<input checked="" type="radio"/> 県 <input type="radio"/> 市町村 <input type="radio"/> その他 ()																																																		
事業名	港湾改修事業 (改修(地方)事業)		地区名等	仏ヶ浦港 長後地区	市町村名	佐井村																																																
事業方法	<input checked="" type="radio"/> 国庫補助 <input type="radio"/> 交付金 <input type="radio"/> 県単独		財源・負担区分	<input checked="" type="radio"/> 国 40 % <input checked="" type="radio"/> 県 47.5 % <input checked="" type="radio"/> 市町村 12.5 % <input type="radio"/> その他 %																																																		
採択年度	平成 3 年度 (用地着手 平成 - 年度 / 工事着手 平成 6 年度)																																																					
終了予定年度	平成 35 年度 (平成 - 年 - 月 工期変更 (当初計画時 平成 33 年度))																																																					
事業目的	<p>優れた景勝地として知られる下北半島仏ヶ浦への観光は、往時より陸路の便が悪く、昭和40年代、地元佐井村が仏ヶ浦へ小型栈橋を建設したのを契機に観光船の受け入れが本格化している。しかしながら、この小型栈橋も経年とともに機能低下が見られ波浪対策などの面でも安全性と利便性に課題を残すようになっていた。このため、平成3年度、新たに県を港湾管理者とする港湾区域を設定し、仏ヶ浦観光における観光船の航行安全性の向上と観光船利用者の利便性向上を図るため、防波堤、物揚場、歩道等の整備に着手したものである。</p>																																																					
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>再評価時(3回目)</th> <th>再評価時(4回目)</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防波堤</td> <td>100 m</td> <td>100 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>物揚場</td> <td>90 m</td> <td>90 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>泊地</td> <td>1,350 m²</td> <td>1,350 m²</td> <td>0 m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,050 m³</td> <td>2,050 m³</td> <td>0 m³</td> </tr> <tr> <td>道路(歩道)</td> <td>105 m</td> <td>105 m</td> <td>0 m</td> </tr> </tbody> </table> <p>(事業量や総事業費の増減に係る説明等を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業量については、第3回再評価時(平成21年度)と比較して変更はない。 総事業費については、施工単価及び施工方法の見直しをしたため、増額となっている。 						区 分	再評価時(3回目)	再評価時(4回目)	増 減	防波堤	100 m	100 m	0 m	物揚場	90 m	90 m	0 m	泊地	1,350 m ²	1,350 m ²	0 m ²		2,050 m ³	2,050 m ³	0 m ³	道路(歩道)	105 m	105 m	0 m																								
区 分	再評価時(3回目)	再評価時(4回目)	増 減																																																			
防波堤	100 m	100 m	0 m																																																			
物揚場	90 m	90 m	0 m																																																			
泊地	1,350 m ²	1,350 m ²	0 m ²																																																			
	2,050 m ³	2,050 m ³	0 m ³																																																			
道路(歩道)	105 m	105 m	0 m																																																			
事業費	<p>○第3回再評価時総事業費 2,062 百万円 (単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>~23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>小 計</th> <th>27年度~</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>① 1,542</td> <td>872</td> <td>2,414</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>② (0)</td> <td>(0)</td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td>〈 年 月変更〉</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>1,357</td> <td>40</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>③ 1,497</td> <td>917</td> <td>⑤ 2,414</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>④ (0)</td> <td>(0)</td> <td>⑥ (0)</td> </tr> </tbody> </table>							~23年度	24年度	25年度	26年度	小 計	27年度~	合 計	計 画					① 1,542	872	2,414	(うち用地費)	()	()	()	()	② (0)	(0)	(0)	〈 年 月変更〉								実 績	1,357	40	50	50	③ 1,497	917	⑤ 2,414	(うち用地費)	()	()	()	()	④ (0)	(0)	⑥ (0)
	~23年度	24年度	25年度	26年度	小 計	27年度~	合 計																																															
計 画					① 1,542	872	2,414																																															
(うち用地費)	()	()	()	()	② (0)	(0)	(0)																																															
〈 年 月変更〉																																																						
実 績	1,357	40	50	50	③ 1,497	917	⑤ 2,414																																															
(うち用地費)	()	()	()	()	④ (0)	(0)	⑥ (0)																																															

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	(うち用地費)		62 % [③/⑤]	97.1 % [③/①]
			() % [④/⑥]	() % [④/②]
	主要工種 毎割合 (事業費)	防波堤 (1,701百万円)	52.6 %	107.9 %
		物揚場 (552百万円)	80.1 %	100.0 %
泊地 (69百万円)		100 %	100 %	
道路(歩道) (92百万円)		100 %	100 %	
説 明	<p>本プロジェクトで整備すべき施設のうち、泊地、道路(歩道)についてはすでに完了し供用開始している。物揚場については、平成9年に計画延長90mのうち30mを供用開始させ、平成13年には70mまで供用開始している。計画残の20mについては、利用船舶の状況を見極めて、防波堤の完成後に着手する計画にある。防波堤については、進捗率が52.6%で現時点での主な残事業となっているが、これは今後も継続して着実に進めて行き平成35年までに完成させる。</p>			
問題点・ 解決見込み	<p>計画全体に対する進捗率は62%にとどまっているが、年次計画に対しては97.1%の進捗率でほぼ計画どおり進捗している。現時点で、計画全体に対する進捗率があがっていないのは、県と町の負担金に対する財政事情を考慮して確実に予算措置できる事業費の年次割りを考えた結果、整備期間が長期となっているためである。今後の情勢変化によっては計画の前倒しも考えられるところであるが、今回の評価にあたっては現状を踏まえた確実な工程で考えた。事業を進めて行くうえでの阻害要因はない。</p>			
事業効果 発現状況	<p>観光船利用者数は、事業実施前の旧栈橋では年平均51千人であったものが、平成21年には過去最高の82千人と大幅に増加がみられた。震災の影響で利用客は減少したものの、事業効果の発現もあり平成24年は48千人まで回復してきている。</p>			

(2) 社会経済情勢の変化

(A)・B・C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 港の背後地である仏ヶ浦は、一帯が断層海岸とされ急峻な断崖が連続し、石英質に富んだ凝灰岩が種々の侵食作用を受けて独特の景観を形成している。このことから、仏ヶ浦は昭和16年に国の名勝天然記念物に、昭和43年には下北半島国定公園に指定されている。このような優れた景勝地にあることから、当地を訪れる人は全国規模で集まっている。	【県内の評価】 下北半島は仏ヶ浦のほか、恐山、薬研温泉、大間崎等観光資源が豊かであるため、青森県内においても旅行者には人気が高い地域である。 仏ヶ浦は、陸路の便が悪く海上からの上陸が便利であることから、下北半島で唯一、定期観光船が就航している。このため、港の整備を通じた観光船の航行安全性の向上、来訪者の利便性向上が求められている。	
	当地区における評価	平成25年度に実施したアンケート結果によると、来訪者のうち県内居住者は9.4%となっており、その他約9割は県外からの来訪者である。特に多いのは東北地方よりも関東地方であり、その他の地域も全国各地にわたっている。このことから、仏ヶ浦は、県外地域から多くの来訪者の需要があることがうかがえる。		
必要性	名勝地仏ヶ浦へ訪れるには、陸路では交通の便が悪く、また、その地形的特徴から急傾斜地での徒歩も伴う。一方、海上から景観を眺めながら、直接仏ヶ浦に上陸できる観光船利用ルートは、来訪者にとって老若男女を問わず安全で快適な移動手段となっている。 仏ヶ浦港に残る課題としては、観光船が航行できる海象状況であっても、仏ヶ浦港の静穏が悪ければ入航できずに引き返している状態にあることである。この状態を解消するためには、特に整備中である防波堤の着実な延伸が必要である。			a. b
適時性	仏ヶ浦港の港内静穏度（稼働率）の目標値は、一般的に要求される97.5%としているが、現状では、防波堤が整備中であるためその効果は十分発揮できていない。現時点では、観光船が出航しながらも仏ヶ浦港に着岸できずに引き返している隻数が年平均約142隻ある状況である（稼働率約94%）。これについては、防波堤の延伸により解消に向かうものであることから、事業は着実に継続していきたい。			a. b
地元の推進体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・下北観光協会からの要望がある。 ・観光船運航事業者からも事業に対する理解を得ている。 ・佐井村からも、事業費負担に協力していただいており、着実な進捗が望まれている。 			a. b
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・仏ヶ浦港へ安全に接岸し、上陸することが図られることにより、仏ヶ浦の観光振興に寄与する。 			

(3) 費用対効果分析の要因変化

A・(B)・C

区分	主な項目	第3回再評価時	第4回再評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 建設費	2,310 百万円	3,199 百万円	889 百万円
	(2) 管理運営費	369 百万円	515 百万円	146 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	2,679 百万円	3,714 百万円	1,035 百万円
便益項目 (B)	(1) 交流・レク機会増加便益	4,933 百万円	4,054 百万円	△ 879 百万円
	(2) 移動コスト削減便益	142 百万円	856 百万円	714 百万円
	(3) 残存価値	百万円	273 百万円	273 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	5,075 百万円	5,183 百万円	108 百万円
B / C		1.89	1.40	
費用対効果分析 (B/C)	【費用対効果分析手法】 （分析手法、根拠マニュアル等） ・「港湾投資の評価に関する解説書2011」（平成23年7月）による。 ・費用、便益ともに社会的割引率(4%)を考慮し、平成26年を基準年として現在価値化した。			a. b
計画時との比較	【計画時との比較における要因変化】 ・前回同様、移動コスト削減便益について、Without（事業を行わなかった場合）の需要を精査して、控えめな便益結果となるよう見直した。 ・近年5ヶ年平均の需要のため、震災影響も反映していることから控えめな便益となった。 ・防波堤の本体工打設に関して、プレバクトコンクリート打設から水中不分離コンクリート打設に工法変更したため、事業費の増額となった。			a. (b)

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A)・B・C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 防波堤の水面上の表面仕上げについては、景観配慮の必要があり、事業当初は擬岩仕上げで計画していたが、経済的に安く同等の効果が得られる化粧型枠仕上げへ見直して、コスト縮減を図っている。	a. b
代替案	【代替案の検討状況】 防波堤の表面仕上げ方法を、擬岩工法から経済的な化粧型枠工法に見直した。基本構造、形状については、景観・安定性・経済性の観点から比較検討を行い、現場打ちコンクリート方式を採用しているものである。	a. b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A)・B・C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 平成25年度に仏ヶ浦港来訪者へアンケート調査を行い、事業に対する意識調査を行った。	【住民ニーズ・意見】 当該事業を金銭的価値に置き換えるための質問をしたところ、485人のうち80.4%が価値があるという認識を示した。	a. b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 ● 配慮している ○ 配慮していない (2)区分 ○ 農林地等の緑地や植生の改変 ● 地形や地盤の改変 ○ 水系や水辺の変更 ● 海域環境の変更 ○ 敷地整備段階での重機の使用 ○ 土砂等の搬出・搬入 ○ 廃棄物処理等 ○ 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 ○ 基礎や地下建造物の建設 ○ 低層建築物の建設 ○ 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 ○ 高架構造物の建設 ● 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 ・防波堤整備にあたり、仏ヶ浦の優れた景観と調和するように、自然石風仕上げの化粧型枠を採用している。 ・工事施工に際しては、汚濁拡散防止膜の設置や、水中不分離コンクリートを使用するなど、環境への影響が小さい工法を採用している。		a. b
地域の立地特性	(地域指定) 半島振興地域、山村振興地域、過疎地域 (災害記録) なし		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
評価理由	仏ヶ浦港では、静穏度が計画目標に達しておらず、観光船利用者の安全性と利便性の向上を図るためには、着実に事業を推進し早期に事業効果発現を図る必要がある。したがって対応方針を「継続」とした。
備考	

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	● 対応方針(案)どおり ○ 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)